

## 大野村閉村と「おおの・キャンパス・ビレッジ」

永遠なる大野村から新生・洋野町（ひろのちょう）へ

守護神・野原の持つ「訪村晴天不敗神話」も異常気象には勝てず、時折粉雪の舞う 12 月 17 日-18 日、北沢教授をはじめとして、D2 岡村、M2 西原 M1 竹山、私で、研究室最後の訪「村」であった。そう、大野村は、種市町との市町村合併により 2006 年 1 月 1 日からは、新生「洋野町」に生まれ変わる。

12 月 18 日、村民 1000 人を集めて盛大な閉村記念式典が行われた。伝統芸能が式典を彩り、懐かしい写真や村の子供たちの歌声に包まれる中、北沢教授を始め、大野村発展に貢献した方々には感謝状が贈呈された。

もう 1 つ、閉村を期に、大野村と研究室との 7 年間をまとめた、「おおの・キャンパス・ビレッジ」を刊行した。北沢教授からのこれからの地域づくりへのメッセージをはじめとして、長年にわたるリサーチ

で掘り起こした地域資源、消防センターを皮切りに児童館まで続く施設整備、地域を盛り上げる夢市やえんがわカフェといったイベント、そして、各地域に向けて研究室をあげて提案してきた地域づくり計画と、正に集大成である。

残念ながら「大野村」という村名は姿を消し、プロジェクト名も「むら」ではなくなる訳だが、それでも、各集落や地域とその地域の人々の笑顔は、変わらない。むしろ、何にも負けない集落単位の地域づくりを目指してきたのだ。

P. S. 私たちの（少なくとも私の）第二の故郷、(旧) 大野村に、今一度、足を運んでみてはいかでしょうか。  
(野原卓助手)



■閉村式の伝統芸能



■大黒屋のばあちゃん(再掲) +北沢教授



■「おおの・キャンパス・ビレッジ」

### <そうだ、京都、行こう・・・>

1 月 7 日に D1 馬場 + M1 後藤 + 私で京都に行ってきました。当初の名目(?) は日文研研究会だったのですが、午前のみ聴講(三浦展氏のファスト風土論)して、昼から 2 人の案内でまち歩きに繰り出すことに。朝は雪模様でしたが、次第に晴れ間も広がり、百万遍から鴨川を渡って、寺町通り、錦市場等を巡って景観・まちづくりセンター(五条と七条の間くらい)まで、ぶらぶらと南下しました。馬場さんから京都の現状に関するディープな話題も提供していただきましたが、クライマックスは先斗町での冬の川床体験! 店の女将さんが馬場さんの知り合いだそうで、京都のまちづくりに携わるとこんな繋がりもできるんですね。こたつの入った床で京料理を味わいながら、今後の研究室生活について熱く語り合ったのでした…。



(写真はすっかり雰囲気酔う後藤 M1)

(D1 永瀬節治)

# 修論締め切り間近！不夜城・十階院生室に、闘うM2を慰問

修士論文提出を2日後に控えた1月30日深夜、ぴりりとした緊張感と若干の生活臭漂う十階を電撃訪問。今まさに修士課程2年の集大成を産み落とさんとするM2の面々に、貴重な時間をもらって談話を取った。

## <質問>

- ①現在の生活パターンは?
- ②今の生活の心の支え・癒しは何?
- ③論文が仕上がったら一番にしたいことは?
- ④これから修士論文を書くであろうM1以下に助言を!

- ①日の出まで作業、帰って家で寝る。家で作業をして、夕方また来る。
- ②(ギターをつまびきながら)音楽。
- ③温泉旅行に行きたい。
- ④学生生活を楽しむことを忘れずに! (内山M2)



■つくえを並べて切磋琢磨

- ①朝7時に帰ってご飯を食べて寝る。昼に起きて、午後3時ごろにふたたび来る。
- ②インスタント焼きそば。まとめ買いしている。
- ③飲み。デート。
- ④信ずれば、終わる。終えねばならぬ。(大谷M2)

- ①昨日は終電で帰り、今朝一番でアンケート最終回収。その足で研究室へ。締め切りまでもう帰らない。
- ②タバコ。ふだんより増えて、1箱半/日くらい。
- ④とにかく早めに!

(田辺M2)



■主持つメモ帳とパソコン

- ①昨晩は9時に帰って寝て、今朝4時に来た。眠くなるまでは寝ない。リズムはないようで、あるような。
- ②音楽。
- ③どこか行きたい。温泉!
- ④調査の前の下調べを、しっかりやるのがよい。(黒瀬M2)



■止められない、100円菓子



■「眠気で倒れるまではやる」

- ①研究室で1泊。その間は寝ない。2日目の夜に帰って寝る。翌朝来る。この「2日1クール」の繰り返し。
- ②コンビニの100円菓子。
- ③ドライブ。温泉!
- ④M1の間でできるだけ蓄積を。ツケは後にくる。(戸田M2)



■作業の合い間、東の間の談笑

- ①昨日は夕方に来て徹夜、今日の昼にソファで仮眠。
- ②食べること。家で独りで過ごす時間。
- ③あまり考えられない。たぶん、何をしても楽しい
- ④スパートは早め、秋ぐち前からかけるべし。(阪口M2)

- ①朝8時、一番乗りで来て、夜11時に帰る。研究室一の朝型。
- ②ネットに落ちてる画像。
- ③温泉旅行!
- ④そろそろ就活も本格化する時期だが、いろいろ頑張ってる。(伊藤M2)



■昼は塩焼きそば、夜は...

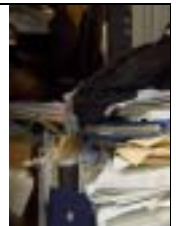
## <取材を終えて>

ギリギリの闘いの中で、最大のネックはやはり睡眠。共同のソファは仮眠用に大人気で、争奪戦も激しい、という。「温泉」への憧れを口にする院生が多かったのは、今年の異様な寒波のゆえか、はた、戸田院生の論文(「共同湯の研究」)に触発されてか。ともあれ、この号が出るころには締め切りも過ぎ、ジュリに向けて最終の一週間だ。七人の奮闘を祈ろう。

## 一足お先！中島助手、ドクター論文「都市美運動に関する研究」提出

M2が10階で苦悩するころ、9階最奥部の一区画では中島助手が、鉄人的スケジュールのもと、ドクター論文を密やかに先月27日に提出。「今週は5日間を2時間睡眠2回で乗り切りました。といっても、まだ完成したわけじゃないよ。とりあえず、あと1、2週で完成まで持っていき、その後はGW前くらいの口頭試問に向けて頑張ると。あ、崩れるから、そこ(右写真)触らないで」

(写真)人呼んで中島小路、ゆきどまり。カオスのようだが余人にはわからぬ美しい秩序がある、らしい。



## 今年度最後の研究室会議

今年度最後の第11回研究室会議は1月26日に開かれ、修士論文提出直前のM2に代わって、この日はM1だけの研究発表になった。発表者は8人だった。鄭一止(韓国)「伝建地区の周辺地域における材料のまちづくりに関する考察」、三沢茂樹「都市デザインにおける五感活用の可能性」、早坂勝一「成熟した計画住宅地における住環境保全のための実効性のある地区内ルールづくりに関する研究」、楊惠亘(台湾)「台北市における産業遺産の再生のあとの維持について」、竹山奈未「都市に地形を蘇らせる方法の研究」、坂内良明「ラブホテル街形成に関する研究」、柴田直「CSRを活用した都市発展の可能性に関する研究」、後藤健太郎「都市の大景観の創出に関する研究」

## 編集後記

研究論文執筆という作業それ自体はまったき個人作業でありながら、十階院生室には一種、コロニー的な雰囲気がある。各自の作業の進捗具合、生活ぶりが自然と共有化されていた。物理的には「家でもできる」作業を、皆、灯火に群がるように朝な夕な研究室に持ち寄り、各々進めてゆく。たまたま仮眠者がいなかったソファに座って、研究室の「協働する共同体」としての意義を思った。(坂内)